

パートナーシップおかげ

NO. 24

岡谷市男女共同参画推進市民の会

「男女共同参画って何だろう」

岡谷市区長会長 横川区長 久保 寛男



地域に町に、隣近所に「男女共同参画」

今、小学生、中学生にかけて「男女共同参画」という意味がわかりかけてきたように思う。男女共同参画の捉え方が、女性を家庭から家庭と言う枠を超えて外に出そうとしている。そして、外に出した数字から男女共同参画が進んでいるかのように思っている。そんな気がしてならない。

過去の日本人の生き方の中で「男尊女卑」、家庭生活の中では、妻が家事を行い、子どもを育て、夫は、外に出て生活費を稼いでくる。これが極普通の家庭生活として過ごしてきたと思う。「男女共同参画」は、これを目印に、女性が男性の分野と言われている職域へ進出してくる。「何で女性がそんな事まで」、こんな捉え方のイメージがやたら強いような気がする。しかし現在、これではいけないのだ。男性も女性も、垣根があるとすれば、それを乗り越えて助け合い協力し合って生きていく必要がある。

今は、「男女協力」・「男女平等」この事の意識をそれぞれが、どれだけ持って事に当たるかが求められている。人間として、男性、女性がいて、それぞれが一定の役目を持って成長していく。その過程の中で人と交わり、人を助け、お互いを助け合い、家庭生活、地域との生活を考えていく、男性も女性もおのずと得意分野、苦手分野があると思う。

人間としてどう生きるか、男性として、女性としてどう生きるか、何をすべきかを求めていく必要がある。この世に生を受けた以上は、世のため、人の為に何かをしなくてはならないと思う。それは、人の為に自分は何が出来るかの追求である。多くの方は、自分の力で生きていると思っているだろう、当然自らの力もなければ生きていけない。私は、人は皆、「生かされている」と思う、周囲のいろんな方々のおかげや万物の供与によって生かされていると思うのです。‘そう思った時に、自分は他の人々の為に何がしてやれるか、何か出来る事をしてやる事が自分の生きている存在価値でもあると思う。

どんな小さな事でも、ささいな事でも人の為に、女性のために、男性のために、色んな為に、があると思うのでそれを実践することだと思ふ。

最後に、女性は家庭に縛られることなく、女性としての活動の幅を広げて欲しい。女性の幅広い分野での活動をどう支え、活動分野への道筋をどう付けていけるのか、やってやれるのか、地域の役員はじめ多くの方々、仲間の理解と協力が必要となる。そして、固定的な観念があるとすれば、それは棄て垣根を作らずお互いに思いやる気持ち、お互いが力をつけるための十分な学習努力が必要である。

何が実現していれば、自分は仕事を続けていたか (全国値・女性のみ回答 平成25年内閣府)

「女性活躍推進法」が昨年8月28日可決されました。しかし女性が活躍するには課題は何か?昨年11月14日岡谷市連合婦人会70周年記念式典に、来賓の中島副知事より「女性の社会参加について」と題して講演がありその資料の一部です。

- | | | | |
|------------------------|-------|--------------------------------|-------|
| ・認可・認証保育園等に子どもを預けられれば | 55.9% | ・配偶者の積極的なサポートを得られていれば | 30.5% |
| ・短時間勤務等・職場との両立支援制度があれば | 43.5 | ・残業が少ない職場だったら | 28.4 |
| ・職場に仕事・家庭の両立に対する理解があれば | 42.4 | ・通勤時間をもっと短かければ | 20.9 |
| ・休暇が取りやすい職場だったら | 42.0 | ・職場で妊娠や育児に関する嫌がらせがなければ | 19.0 |
| ・両親等親族のサポートを得られていれば | 36.9 | ・職場に女性の先輩、上司に両立させている理想のモデルがいれば | 17.5 |

テーマ “子育て期の働き方について考えてみませんか”

ネット上のブログで流れた「保育園落ちた。日本死ね!!」の言葉にこれに同調した母親が、「落ちたのは私」と書いた紙を上げて、国会前で抗議の声をあげた。「産後休暇後、保育園に預けられないと首になる」この切実さがひしひしと伝わります。市民の会の子育てアンケートでは、未満児保育を利用して子育て期を乗り切る人が増えているようです。



話題提供者

① (株) 永田製作所 百瀬 静子さん

子どもが3歳と6歳の時、正社員として働き始めて定年まで勤めた話で、2人の女の子が母親を助けて勤めあげられた話です。子どもとは毎日交換日記を交わし、仕事から帰って読み子どもと心通わせていたとのこと。家事を背負って苦勞してきた事を、これからは男女で分担しようという動きに変えたいと思いますね。

② (株) リバー・ゼメックス聞き取り報告 今井 和子さん

片親の子育て中の人でも正社員として勤められる会社で、残業がなく、仕事のやり方が競争させるのではなく、グループで仕事をするので代替りの人がいて休暇がとりやすい。人間を大切にする会社だと思いました。こうした会社がもっと増えてほしいです。

③ 岡谷市の子育て支援の現状 子ども課 広瀬 智子さん

岡谷市は他市に負けない子育て支援をしている。未満児保育が増えているので、30年までに30名増加させる。岡谷病院の「きらり」も地域の人が預けられるようにする。

グループ討議では母親の働く姿を子どもに見せると良い。これからは女性も専門職を身につけよう。男性も育児休暇の取得をぜひ検討してとの意見が出ました。

(市民の会員 野溝 道子)

会社訪問 (株) リバー・ゼメックス 長地工場 (女性9人 男性1人 計10人)

女性が多く働いている会社で、市民の会員が、4名の社員の皆さんにお話を聞きました。

Aさん(高2の息子中3の娘) Bさん(中3の息子) Cさん(娘26歳と20歳) Dさん(成人の子3人)

Q. 女性は再就職する時はほとんどパート・臨時・嘱託職員が多いのですが、皆さんの雇用形態はどうなっていますか?

A. 全員途中入社ですが正社員として就業しました。

Q. 子育てをしながら働けるのは会社がどのような仕組みになっているのでしょうか?

A. グループで仕事をしていて、誰でもどの仕事も出来るように指導してくれます。子どもが具合が悪い時など、誰が休んでも他の人が代われるからです。基本的には有給休暇を利用しますが、子どもが小さい時は有給休暇が足りず困りましたが、グループで助けてくれました。祖父母が近くにいると助かっています。

Q. 働く一番の理由はなんですか?

A. 経済的な理由が主です。母子手当等だけではやっていけません。生きる為です。

Q. 働くことが生き甲斐ということについてはどうですか?

A. 年数を経て技術が身につくようになってくればそうなります。医療器具という専門性のある仕事に誇りを持っています。仕事に責任を持ってやっています。

Q. 仕事の役職はどうなっていますか?

A. 係長とか課長はなくグループ長(班長)があります。

Q. 最後に会社に対する思いなど聞かせてください。

A. ノルマも助け合ってやり、困った時は仲間と相談もでき、先輩からも教えてもらい、休みも取りやすく、給料もあまり差がなく平等に働かせてもらっています。再雇用制度(60歳定年→65歳)もありありがたいです。働かせていただいていることで子どもが自立でき感謝しています。

(市民の会員 鮎沢 美知)

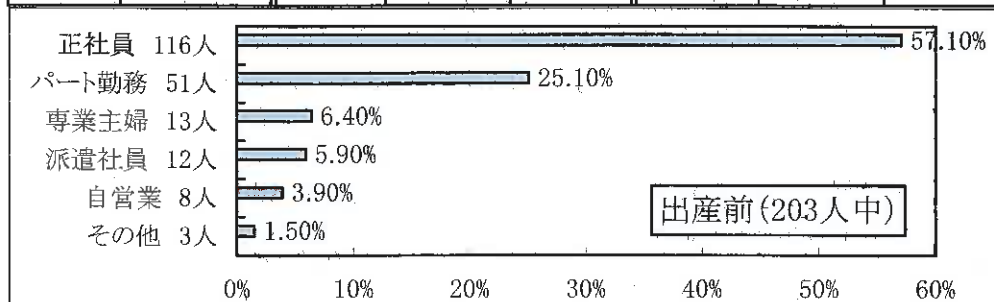
子育て中のお母さんへのアンケート(平成27年10月～11月)

○目的 岡谷市の女性の就労率は全国平均を上回っていますが、20代～40代の就労率は大変おちこんでいます。女性の活躍支援の方針を打ち出している現在その原因を探り具体策を考えたいと思います。

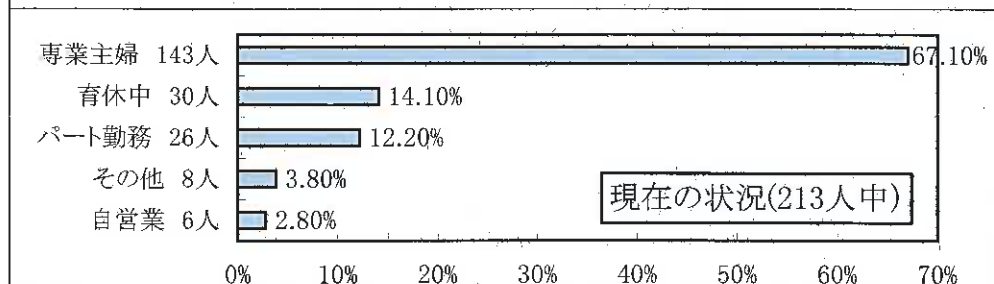
○対象者 20代～40代岡谷市内在住の女性 217人調査 岡谷市男女共同参画推進市民の会

年代構成		子どもの人数			家族構成		
20代	39人	3人以上	39人	18.00%	親と同居	55人	25.30%
30代	147人	2人	108人	49.80%	核家族	162人	74.70%
40代	31人	1人	70人	32.30%	計	217人	

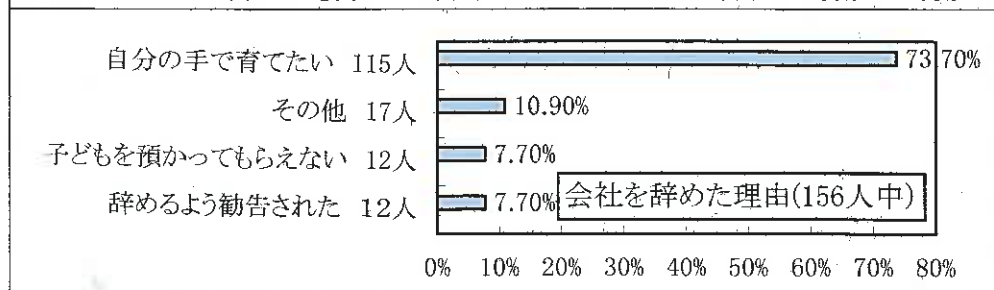
・3分の1の家庭は1人っ子。子どもは平均2人。3人以上もいて頼もしい。



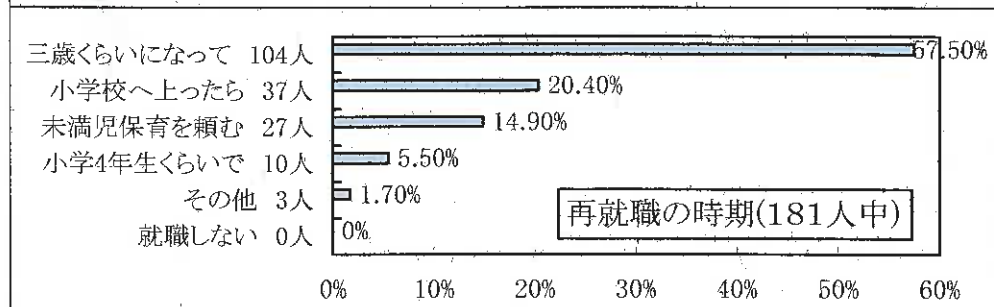
・出産前は90%以上の人が就労している。



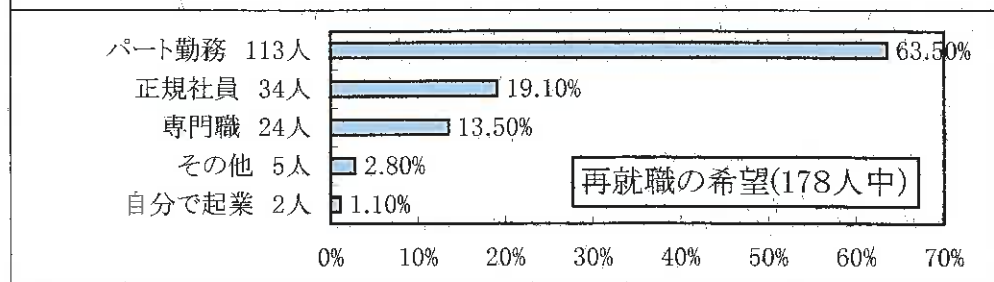
・専業主婦が多いのは子どもは自分で育てたいと離職したと思われる。
・育休中、パート勤務、自営業の人が約3割。



・子どもは自分の手で育てたいと思う気持ちは根強い。
・育休制度に対する理解不足があると思われる。
・子どもを預かってもらえないのは預ける親族がいなかったり、希望する保育園に入園できるのか不安感があるのではないかと。



・子どもがある程度大きくなったら働きたいという意欲が感じられる。
・未満児を預け働きたい人もかなりいる。



・子どもの病気、学校行事等休むことが多いので、ある程度柔軟に働けるパート希望者が多い。
・正規社員に続き専門職希望者も多い。

寄せられた意見・要望

- ・子育てと仕事が両立できるような環境が整えば働きたい
- ・制度はできても妊娠、出産に対して理解不足。
- ・未満児を預けられない。(定員一杯か倍率が高い)
- ・働くことで生き甲斐が持て社会との接点ができる。
- ・保育料が高い。特に未満児の保育料が高い。
- ・男性の就労時間の見直し。
- ・共働きは家族の家事分担意識が必要。
- ・子どもが小さい内は接する時間を大切にしたい。
- ・現状は未満児を抱えて働くのは難しい。
- ・生みたい時に生めて会社に復帰できる社会に。

“女性活躍推進セミナー” に参加して 主催：岡谷市 テクノプラザおかやにて

平成28年1月20日 講師 一般財団法人女性労働協会 前専務理事 佐藤 千里さん

☆ セミナーで紹介された、“女性の活躍”先進企業から学んだこと

1. 先進企業が、女性が活躍する場を創ろうとされた動機は
 - ①仕事の技能・仕組み・様々な人脈を身につけた社員は他に変わりたい。
 - ②会社として、意識や環境を変えてでも確保する。(新規採用→育成→成果→発揮までの期間とコストがもたない)
2. 女性の活躍のためにどのような改革をし、手段・方法をとったか
 - ①常識や思い込みを打ち捨て、任せて、育て、活かしている。 ②活躍している女性の意見を取り入れ、環境・仕組み・方法を変える。 ③多能工に育てお互いにカバーし合い、様々な障害を乗り越えている。
3. 取り組んだ結果として手に入れたもの
 - ①不良品が大幅に減少 → 高品質を要求する取引先から引合いが増加した。 ②会社の知名度が上昇 → 優秀な人材の応募が増加した。 ③活躍する社員をみて、チャレンジする女性が出現してきた。

☆ 女性活躍推進法への取り組み

この4月から施行される法律に沿って、基本方針策定や行動計画策定に取り組むにあたっては、「とりあえずテーマ」や「とりあえず数値目標」を列挙する前に、「先進企業」の行動を参照され、現場の泥臭い現状を掘り起こすことから始めては如何でしょうか。 (市民の会員 山口 俊雄)

平成27年度

男女共同参画推進団体等交流会

平成28年3月9日 長野県総合教育センター

- 長野県内で男女共同参画推進に取り組んでいる団体・個人が集まり意見交換等交流会が行われました。朝から冷たい雨模様の天候でしたが、県内各地より110名(男性23名、岡谷市から15名)が集まりました。
- ◇知事表彰を受賞された小林かつ代さんは、広域合併の際、松本市と合併せず独自の道を選んだ山形村で、女性の社会参加(教育委員・農業委員・区役員登用)を積極的に進め、自からも村の収入役、区長を体験され地域の男女共同参画社会づくりに貢献されました。
 - ◇長野県男女共同参画推進県民会議表彰を受けられた宮永玉子さんは、「女性起業家」の発掘・育成・援助を目的に、平成13年から自主運営団体として活動し、「信州なでしこマーケット」をこれまで12年間にわたって開催し、堅実な成果をあげてきている「アルプス女性企業家会議」の活動事例を紹介。以上二つの事例発表がありました。

その後、「男女共同参画の視点での地域づくり」をテーマに、「ワークショップ」が行われ、ファシリテーターの戸田千登美さん(公益財団法人長野県長寿社会開発センター主任コーディネーター)により、県内各地で取り組み成果をあげつつある、「地域コミュニティづくり」等の紹介があり、その後、4～5人のグループ(全19グループ)別に、どんなところに目を向け「男女共同参画の地域づくり」を進めていったらよいか意見交換が行われました。

時間が短かったことは否めませんが、最後に各グループから報告・発表があり、『アイデアはある。身近に取り組めるものから勇気を出して地道に取り組み、小さな成果でも発信していこう。特に信州の男性の意識を変える活動に取り組んでいこう』など前向きな意見発表に、参加されたみなさんから激励の拍手が送られました。



(市民の会員 三澤 勲)